

# 聖オーガスティン宣教会

The Missionary Order of St. Augustine

2026 年 9 月 13 日（日）

入堂： 特祷 聖霊降臨後第 16 主日 (特定 19、A 年)

聖歌 316 神よ、あなたに寄らなければわたしたちはみ心<sup>こころ</sup>にかなうことができません。どうか何事<sup>なにごと</sup>をするにも、  
奉献： 聖霊<sup>せいれい</sup>によってわたしたちの心<sup>こころ</sup>を治め、導<sup>みちび</sup>いてください。父と聖霊<sup>せいれい</sup>とともに一体<sup>いつたい</sup>であって世々<sup>よよ</sup>に生き支<sup>し</sup>  
聖歌 262 配<sup>はい</sup>しておられる主イエス・キリストによってお願い<sup>ねが</sup>いたします。 アーメン

退堂： 旧約聖書 シラ書 第 27 章 30 節～28 章 70 節

聖歌 401 30 憤<sup>いきどお</sup>りと怒り、これはひどく忌まわしい。  
罪人<sup>つみびと</sup>にはこの両方<sup>りょうほう</sup>が付きまとう。  
28:1 復讐<sup>ふくしゅう</sup>する者は、主<sup>しゅ</sup>から復讐<sup>ふくしゅう</sup>を受け<sup>う</sup>ける。  
主<sup>しゅ</sup>はその罪<sup>つみ</sup>を決<sup>けつ</sup>して忘<sup>わす</sup>れることはない。  
2 隣人<sup>りんじん</sup>から受<sup>う</sup>けた不正<sup>ふせい</sup>を赦<sup>ゆる</sup>せ。  
そうすれば、願<sup>ねが</sup>い求<sup>もと</sup>めるとき、お前<sup>まえ</sup>の罪<sup>つみ</sup>は赦<sup>ゆる</sup>される。  
3 人<sup>ひと</sup>が互<sup>たが</sup>いに怒<sup>いか</sup>りを抱<sup>いだ</sup>き合<sup>あ</sup>っていながら、  
どうして主<sup>しゅ</sup>からいやしを期<sup>き</sup>待<sup>たい</sup>できようか。  
4 自分<sup>じぶん</sup>と同じ人間<sup>おな にんげん</sup>に憐<sup>あわ</sup>れみをかけずにいて、  
どうして自分<sup>じぶん</sup>の罪<sup>つみ</sup>の赦<sup>ゆる</sup>しを願<sup>ねが</sup>いえようか。  
5 弱い人間<sup>よわ にんげん</sup>にすぎない者<sup>もの</sup>が、憤<sup>いきどお</sup>りを抱<sup>いだ</sup>き続<sup>つづ</sup>けるならば、  
いったいだれが彼<sup>かれ</sup>の罪<sup>つみ</sup>を赦<sup>ゆる</sup>することができようか。  
6 自分<sup>じぶん</sup>の最期<sup>さいご</sup>に心<sup>こころ</sup>を致<sup>いた</sup>し、敵意<sup>てきい</sup>を捨<sup>す</sup>てよ。  
滅<sup>ほろ</sup>びゆく定め<sup>さだめ</sup>と死<sup>し</sup>を思<sup>おも</sup>い、掟<sup>おきて</sup>を守<sup>まも</sup>れ。  
7 掟<sup>おきて</sup>を忘<sup>わす</sup>れず、隣人<sup>りんじん</sup>に対<sup>たい</sup>して怒<sup>いか</sup>りを抱<sup>いだ</sup>くな。  
いと高<sup>たか</sup>き方<sup>かた</sup>の契<sup>けい</sup>約<sup>やく</sup>を忘<sup>わす</sup>れず、他人<sup>た にん</sup>のおちどには寛容<sup>かんよう</sup>であれ。

詩編 第 103 編 1 節～14 節 *Benedic, anima mea*

1 わたしの魂<sup>たましい</sup>よ、主<sup>しゅ</sup>をたたえ 〓 すべてをあげて、尊<sup>とうと</sup>いみ名<sup>な</sup>をほめ歌<sup>うた</sup>おう  
2 わたしの魂<sup>たましい</sup>よ、心<sup>こころ</sup>を尽<sup>つ</sup>くして主<sup>しゅ</sup>をたたえ 〓 すべての恵<sup>めぐ</sup>みを忘<sup>わす</sup>れるな  
3 神<sup>かみ</sup>はあなたの罪<sup>つみ</sup>を赦<sup>ゆる</sup>し 〓 病<sup>やまい</sup>をいやされる  
4 あなたの命<sup>いのち</sup>を墓<sup>はか</sup>の中<sup>なか</sup>から贖<sup>あがな</sup>い 〓 慈<sup>いつく</sup>しみと憐<sup>あわ</sup>れみで祝<sup>しゅくふく</sup>福<sup>ふく</sup>される  
5 あなたは生涯<sup>しょうがいのち</sup>豊<sup>めぐ</sup>かに恵<sup>めぐ</sup>まれ 〓 その若<sup>わか</sup>さは鷺<sup>わし</sup>のように、命<sup>いのち</sup>は新<sup>あら</sup>たにされる  
6 主<sup>しゅ</sup>は正義<sup>せいぎ</sup>のみ業<sup>わざ</sup>を行<sup>おこな</sup>い 〓 虐<sup>しいた</sup>げられてい<sup>ひと</sup>る人のため<sup>ひと</sup>に審<sup>さば</sup>きをされる  
7 神<sup>かみ</sup>はその道<sup>みち</sup>をモーセに示<sup>しめ</sup>し 〓 そのみ業<sup>わざ</sup>をイスラエルの子<sup>こ</sup>らに告<sup>つ</sup>げられた  
8 主<sup>しゅ</sup>は恵<sup>めぐ</sup>み豊<sup>めぐ</sup>かに、憐<sup>あわれ</sup>れみ深<sup>ふか</sup>く 〓 怒<sup>いか</sup>るに遅<sup>おそ</sup>く、慈<sup>いつく</sup>しみは深<sup>ふか</sup>い  
9 常に憤<sup>つね いきどお</sup>る心<sup>こころ</sup>を鎮<sup>しず</sup>め 〓 いつまでも怒<sup>いか</sup>りを続<sup>つづ</sup>けられない  
10 罪<sup>つみ</sup>に従<sup>したが</sup>ってわたしたちをあしらわず 〓 とがに従<sup>したが</sup>って罰<sup>ばつ</sup>を下<sup>くだ</sup>すことはない  
11 天<sup>てん</sup>が地<sup>ち</sup>より高<sup>たか</sup>いように 〓 神<sup>かみ</sup>を畏<sup>おそ</sup>れる人<sup>ひと</sup>への慈<sup>いつく</sup>しみは大き<sup>おお</sup>い

12 東と西が果てしなく遠いように || 神はわたしたちを罪から引き離される

13 父が子供を憐れむように || 主の憐れみは、神を畏れる人の上にある

14 主はわたしたちの姿を知り || 塵に過ぎないことを心に留められる

## 使徒書 ローマの信徒への手紙 第14章5節～12節

5 ある日を他の日よりも尊ぶ人もいれば、すべての日を同じように考える人もいます。それは、各自が自分の心の確信に基づいて決めるべきことです。6 特定の日を重んじる人は主のために重んじる。食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。7 わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。8 わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。9 キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。

10 それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。11 こう書いてあります。「主は言われる。『わたしは生きている。すべてのひざはわたしの前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』と。」12 それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

## 福音書 マタイによる福音書 第18章21節～35節

21 そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」22 イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

23 そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。24 決済し始めたところ、一万タラント金に借金している家来が、王の前に連れて来られた。25 しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。26 家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。27 その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。28 ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会おうと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。29 仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。30 しかし、承知せず、その仲間を引っばって行き、借金を返すまでと牢に入れた。31 仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。32 そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不届きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。33 わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』34 そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。35 あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。』

### 予定

9/20：聖霊降臨後第17主日 [エゼ 33:1-11、詩 119:33-48、ロマ 12:9-21、マタ 18:15-20]

9/27：聖霊降臨後第18主日 [エゼ 18:1-4, 25-32、詩 25:1-14、フィ 2:1-13、マタ 21:28-32]



祈りましょう

- キリスト教会(サスベント・インディアナ)、諸聖徒教会(ホノルル)
- 教区の従軍チャブレン、その他のチャブレン

1 ち かく の 主 を ほ め た た え ま つ っ れ わ が こ  
2 す く い の の 主 を ほ め た た え ま つ っ れ わ 見 え ご  
3 い の ち の の 主 を ほ め た た え ま つ っ れ 見 し げ き  
4 さ か え の の 主 を ほ め た た え ま つ っ れ 世 を こ

こ ろ よ い ま し も 目 覚 め て 堅 琴  
る 手 で い が 身 を は ら げ た て ご と  
め ぐ り あ か し こ 降 み あ が そ め し な め に  
ぞ り て あ し こ み あ が そ め し な め に

か き な ら つ つ み 名 を ほ め ま つ れ  
勝 た し め た も う ち か ら た ぐ り な し き  
み い つ く し み を い か で わ す べ  
い す わ が 主 を 永 と 違 に ほ め ま つ れ

1 主 イ エ ス に あ り て は 世 の み 民 に  
2 ま こ こ に 手 て の を と り こ り て ろ は を い り 世 の す と み び た み に  
3 手 こ に 手 て の を と り こ り て ろ は を い り 世 の す と み び た み に  
4 へ だ イ エ ス に あ り て は 世 の み 民 に

ひ す が し と の に し か と の ら の へ い だ て も は な し し  
す ひ く と し の く み こ の は の 子 ど も な り ば  
主 イ エ ス の こ の は の 子 ど も な り ば

8686 (CM)

- |             |        |
|-------------|--------|
| 1 主イエスにありては | 世のみに   |
| 東と西との       | 隔てはなし  |
| 2 真の心を      | 結び合はす  |
| 救いのみ力       | いとも強し  |
| 3 手に手を取り合い  | 一つとなれ  |
| ひとしくみ神の     | 子どもなれば |
| 4 隔てを取り去り   | 人は出会い  |
| 主イエスの心は     | 広がりゆく  |

エフェ2:14-22 詩107:3 ガラ3:26-28 ヨハ17:22-23

1 「なが つ み ゆ る さ る や す ら に ゆ け」 と  
 2 「つか つ れ た る も の な る よ わ れ に き た れ」 と  
 3 「いの ち の か り ま で な る も つ ね に く ら え」 と  
 4 「世 の お わ り ま で な る も つ ね に ま も れ」 と

ゆ る し の み こ と ば た ま い し イ エ ス は  
 ま ね き の み こ と ば た ま い し イ エ ス は  
 め ぐ み の み こ と ば た ま い し イ エ ス は  
 か た み の ま つ り を の こ し し イ エ ス は

お も い と こ と ば と お こ な い の つ み -  
 こ の 世 の た び じ に お か し し わ れ を -  
 ひ た ら も ま と ね む る っ か せ こ ろ に -  
 わ れ を ま ね き た り あ ま し っ こ う た げ の -

く い な げ く わ れ に ゆ る し を た も う  
 ま の み と そ ば く ち れ に こ た し た た も う  
 さ ち と と さ か え も の の ゆ か ま に た た も う  
 さ ち と と さ か え も の の ゆ か ま に た た も う

8787D

1 「なが<sup>汝</sup>罪<sup>つみ</sup> 赦<sup>ゆる</sup>さる  
 赦<sup>ことば</sup>しの み言葉  
 思<sup>おも</sup>いと 言葉と  
 悔<sup>く</sup>い 嘆<sup>なげ</sup>く われに  
 安<sup>やす</sup>らに行<sup>ゆ</sup>け」と  
 たまいしイエスは  
 行<sup>おこな</sup>いの 罪  
 赦<sup>ゆる</sup>しを たもう

2 「疲<sup>つか</sup>れたる 者<sup>もの</sup>よ  
 招<sup>まね</sup>きの み言葉  
 この 世<sup>よ</sup>の 旅<sup>たび</sup>路<sup>じ</sup>に  
 主<sup>しゅ</sup>の みそ ばち かく  
 われに 来<sup>き</sup>たれ」と  
 たまいしイエスは  
 疲<sup>つか</sup>れし われを  
 憩<sup>いこ</sup>わせたもう

3 「命<sup>いのち</sup>の 糧<sup>かて</sup>なる  
 恵<sup>めぐ</sup>みの み言葉  
 ひたすら もとむる  
 まこと の 食<sup>く</sup>い 物<sup>もの</sup>  
 われを 食<sup>く</sup>らえ」と  
 たまいしイエスは  
 飢<sup>う</sup>えし 心<sup>こころ</sup>に  
 豊<sup>ゆた</sup>かに たもう

4 「世<sup>よ</sup>の 終<sup>お</sup>わり までも  
 記<sup>記念</sup>の まつ り を  
 われを も 招<sup>まね</sup>きて  
 幸<sup>さち</sup>と 榮<sup>さか</sup>え と を  
 つねに 守<sup>まも</sup>れ」と  
 残<sup>のこ</sup>しし イエスは  
 あまつ 宴<sup>うたげ</sup>の  
 望<sup>のぞ</sup>ませ たもう

ルカ8:48 マタ11:28 ヨハ6:54 1コリ11:23-26 ルカ22:14-20並行